

はじめに

戦後五十余年、社会はめまぐるしく、そして大きく変わってきました。交通革命、情報革命がもたらした生活の変化は、人間の長い歴史の中で最も急激なものです。

その結果、私達の生活そのものが、また、生活意識が、どんどん外に向かって広がっています。勤め先も、買い物や旅行も他都市、他県、そして諸外国へと広域化してきました。携帯電話の普及は、いつでもどこでもコミュニケーションを可能にし、テレビやインターネットは、瞬時にして世界各国のリアルな状況を私達に伝えてくれます。

科学技術の進歩が、生活を確実に便利に、そして楽しいものにしてきたのは事実です。その意味では、私達は良き時代に生きていると言えます。

しかし、私は、私達の生活や意識が広域化、スピード化の方向にどんどん進むことに一抹の不安を覚えます。それは、外に目を向けると同時に、内に目を向けることの大切さを思うからです。私達の意識が外に向かって広がるあまり、身近なことについての意識が希薄になっているのではないかという心配があるからです。私達は今、外に目を向けると同時に、内に向ける目を持たなければならないと考えます。

昨年度発行した「教育相談の手引き（人間関係づくり）君に会えてよかった」は、岐阜県内はもとより全国から好評を得ました。これも、外に向ける目と同時に、内に向ける目を持つ必要性の証の一つだと考えます。昨年度に続いて、この手引きが、子どもや大人の「外に向ける目」と「内に向ける目」を育み、豊かな人間関係づくりに役立つことを願います。

平成13年3月

岐阜市教育長 安藤 征治